

2025 年 9 月 30 日
日本船主協会 企画部広報室

海運と船員の重要性を学校教育の場で
～東京都多摩市の小学校にて出前授業を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、海事施設の見学会や出前授業の実施等に取り組んでおります。

今般、9月10日（水）に、日本船長協会と協力し、東京都多摩市にある帝京大学小学校の6年生と保護者を対象に、海運や船員の仕事について出前授業を行いましたので、その模様をお知らせします。同校での出前授業は2021年より実施しており、今回で5回目となります。

出前授業は2部構成にて行い、前半は当協会から海運全般について、後半は日本船長協会から船や船員について話をしました。

前半の当協会の講義では、はじめに、資源の乏しい島国である日本は外国から多くのものを輸入しているため、貿易量の99.6%を輸送する海運は重要な産業であることを伝えました。

次に、身の回りの日用品を運ぶ「コンテナ船」に焦点を当て、2種類のコンテナ模型に入ったサッカーボールとフライドポテトのおもちゃをヒントに、ドライコンテナとリーファーコンテナ（温度管理ができるコンテナ）の違いを考えてもらいました。

その後、コンテナ船がどのような航路を通って日本にものを運んでくるか、白地図に書き込むワークを実施しました。正解発表の際には、アメリカ東岸から日本への航路で通過するパナマ運河について、その仕組みや運河通航のメリットを解説しました。



コンテナの違いや、航路を考えるワークの様子

その後、児童全員で「船長！」と呼ぶ声に応えて日本船長協会の船長が制服姿で登場し、拍手で迎えられました。

授業の後半は、船長が、様々な船種や船を動かすための計器や設備、航海士・機関士の仕事内容や勤務体系、そして多様な国籍の人が一緒に働いていること等について、自身の経験やクイズを交えながら説明しました。

また、船内の過ごし方について、コックがつくる多彩な料理を食べられること、運動器具やゲーム等の娯楽も充実していること、船内にも Wi-fi 環境が整っていること、船員になってよかったこと等を紹介し、児童は興味津々で耳を傾けていました。



船長による授業の様子

最後に、船員の仕事体験コーナーとしてロープワークを実施しました。エイトノットとボーラインノットについて、児童は船長のお手本を見ながら熱心に取り組んでいました。



ロープワークの様子

当協会は、出前授業等を通じて、海運をはじめとした海事産業を学校教育において取り上げていただけるよう、引き続き活動を展開してまいります。

以上